

令和4年度第6回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議議事録

➤ 参加者

(福)千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉推進班 鈴木氏、千葉市発達障害者支援センター 仲村氏、キャリアセンター 藤尾氏、稲毛区高齢障害支援課 奥澤氏、障害福祉サービス課 地域支援班 窄口氏、地域支援班 川口氏、中央区障害者基幹相談支援センター 鳥海氏、花見川区障害者基幹相談支援センター 近藤氏、若葉区障害者基幹相談支援センター 伊藤氏、緑区障害者基幹相談支援センター 由良氏、稲毛区障害者基幹相談支援センター 井出・三沢・甲斐

1. 各区地域部会の報告

鳥海氏) 1/25 に行った児童系事業所の意見交換会で分かってきたこともあり、児童について話題を取りあげることが多かった。高校受験に対する支援が必要な家庭について事例が挙がってくるのがあった。親御さんの介護力が低いケースで、基幹でも数件高校受験の準備等の手伝いをした。学校の見学、受験票の作成、当日の受験の送迎などを職員で手分けして行った。地域の課題が浮き彫りになった。それに関して基幹がどこまで関わっていくかも悩みながら支援をしている。親御さんの能力で、本人の学びの機会を奪われるのはどうなのかと思う。児童家庭支援センターからは、不登校の相談が多いとのことだった。親の介護力がなく、子どもが不登校になっているケースが多い。「迎えに行くから出ておいで」と言えば出てこられるご家庭には送迎の支援もしているとのこと。親が原因で不登校になっている、受験の課題があるなどは今後も議題に挙げていきたいと考えている。

近藤氏) 自立支援協議会の動向、医ケア、拠点等の報告を行う他、花見川区地域部会では初めて講演を行っている。講師には、千葉市の地域移行のフォーラムで親御さんの立場として登壇した半澤氏に依頼。ファーム栗の木の家家族会役員であり千家連の理事。ご自身の息子さんが精神障害を患った時に、精神障害を知るために大学に入り直し、精神保健福祉士の資格を取得。家族の立場でもあり、GHでの勤務をされて支援者でもあるという多面的な見方から、精神障害の人が地域で暮らしていくにはどうしたらいいか、なにが難しいのかなど話していただいた。親御さんの立場の見方もあるが、学ばれる姿勢や科学的な見方など講演を受けて、参加者からのご意見をいただいて話しを積み上げをしている。

伊藤氏) 地域と連携する会議について知りたいとのことで、千葉市障害者GH連絡協議会会長 番場氏同行者としてドットラインと筑波大学看護師の方が参加している。

各会議の報告、その後

あんしんケアより情報共有として事例あり。10年くらい前から関わっているケー

スについて。元々の関わりとして、自室が2階にあるが階段の上り下りが難しく1階に引っ越したい、生活保護を受けたいとの相談だった。その段階では、障害でも介護でもない。生活自立が出来た時にはそちらに繋がっている。その後の経過で、障害、介護保険の利用にも繋がっている。一番最初は、介護でも障害でもなかった人だったが、総合相談に繋がっていて良かった。総合相談の幅の広さが大事だなと思った。GH連絡協議会からは、GHの調査や実態についてもお話しをいただいている。若葉区地域部会では、日中支援型GH管理者に来ていただいて、こういったGHかなど話していただいている。まとめとして、GH連絡協議会ではどのような研修をしているかなどお話しいただいている。GHは介護包括型が多く、比較的軽度の障害の人を受け入れている。しかし、元々のグループホームの在り方であれば、重度の方を受け入れて地域移行をしていく視点もある。どうやってGHを探したら良いかなど話題が挙がっている。消費者生活センターからの詐欺に関する情報提供を行った。

由良氏) 1月の運営事務局会議の報告、部会等の報告。医ケア部会、強度行動障害を考える会、地域生活支援拠点についてなど報告している。地域での課題などについては、計画相談の必要性の認識の違いについて話しをしている。千葉市、基幹としては計画相談の必要性を訴えているが、緑区では新規の受け入れが難しい状況が続いている。基幹としては、計画相談を探しながらセルフプランの作成のお手伝いをしている。セルフプランや計画相談に関する優先順位といったことについてご意見をいただいた。基幹に多くの相談が挙がってくる中で、基幹も振り分けをしていくのか優先順位をつけることは難しいが、セルフプランでもその後のフォローをしたり、計画相談への後方支援をするなどが必要。今後に関しては、精神障害に関する問い合わせなど地域ニーズの把握をしながら検討していく予定。

井出) ネットワーク会議や運営事務局の報告。地域で暮らす、支えるをテーマに意見交換。パニック、場面緘黙、うつなどあるケースについて事例検討。他区を転々とし稲毛区で定住しているケース。最初は筆談だったが、関係性が出来てきている現在は会話が出来る。自殺企図があり、週3回警察のお世話になることもあった。地域の方からの苦情などいただいていた。ご本人としては、地域で安心して暮らしたいというご意向もあった。それに関する検討。社協、健康課、生活自立などとも関わりを持っているケースで、携帯はないが行動力があり、話しがあると自分で出向いて相談をすることが出来る。色々な動きがあり警察介入から入院になったが、退院した当日に、また警察に保護されている。委員の方々からご助言等もいただき、職親制度なども教えていただいた。色々な機関の方からご助言や情報をいただくことでケースについて深めることができた。

※美浜区の報告に関しては別紙参照。

2. 千葉市障害者基幹相談支援センター研修会、意見交換会等年間報告

井出)年12回相談支援事業所向けの意見交換会を実施。奇数月は6区合同の意見交換会、偶数月については各区の意見交換会を開催。第10回1月開催については、中央区高齢障害支援課 荒井主査にお越しいただき、サービス等利用計画やモニタリング報告書の作成方法、アセスメントの取り方など具体的にご説明をいただいた。その他、研修・意見交換会を行っている。児童系事業所意見交換会については、千葉市児童発達支援センターにご講義いただいた。その後、各区に分かれてグループワークを行った。放デイ、児発以外にも保育所や幼稚園なども参加してくださった。地域の方との幅広い交流になった。

近藤氏) 児童系については、連携に情報共有の場を求める声がある一方で、ひとりが複数事業所を利用することが日常の児童・学齢期において、あるケースに関わった時、各事業所がそれぞれの支援をして、本人も保護者も混乱しないかと感じた。その人の安定につながるには、統一した取り組みが必要なのでは、というようなことがきっかけの一つ。今回は幼稚園、保育所の人も入って横の連携のスタートになればというところ。

伊藤氏) 拠点コーディネーター年間報告。ネットワークの構築のための準備を行っている。緊急時のために、計画相談向けのチラシ作成、配布。拠点登録事業所との懇談会や勉強会など開催。短期入所・GHの利用についてのアンケートを実施している。現状30程度の事業所から回答をいただいている。アンケートを基に、取り組みに繋げていきたい。拠点事業についての動画作成も行っている。現在作成途中。(動画視聴) 完成したら放映したいと思う。

奥澤氏) 今後どう活用されるのか。

伊藤氏) 基幹のホームページにURLを貼って動画に飛んでいただく形になる。

奥澤氏) 知りたい人が探して観るかたちになるか。

伊藤氏) 現状はその予定。

井出) 周知と具体的にどうしていくか。事業によって登録方法等が異なるため、市と順序立ててやっていく形になる。

仲村氏) 計画相談や保護者なども観ると思う。耳慣れない言葉も多いと思うので、可能なら字幕があると分かりやすいと思う。

伊藤氏) 医ケアコーディネーター年間報告。奇数月にワーキングチーム、偶数月に医ケアの検討会議を実施。ワーキンググループでは、医ケア児の児童発達や放デイ、学校の受け入れ状況、事例についてなど保護者からお話をいただいている。検討会では、来年度実施予定の医ケア等の実態調査のアンケート用紙の内容検討などを行っている。その他、個別避難計画についての検討も行っている。検討会での個別避難計画

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

については、防災対策課と健康課とでそれぞれ書式があるため、話し合いながら歩幅を合わせられるよう進めている。来年度のワーキングチームについては、病院から退院をする医ケア児についてお話しを聞く予定。

井出) 個別避難計画については、防災対策課と健康課とそれぞれ行っているが、会議を行いながら歩幅を合わせていく。

伊藤氏) 元々、防災対策課が行っている個別避難計画、健康課が行っている個別避難計画がある。同時に始まった感じだが、同じ方に対して別々の個別避難計画を作成しても家族や関係機関が混乱してしまうため書式やどう避難したらいいかなど、家族会も含めて検討している。防災対策課は、民間の会社に計画作成を委託している。今年度は何件目標などしている。

鈴木氏) 7月に教育委員会との話し合いとあるが、どういった内容だったのか教えていただきたい。

伊藤氏) ワーキングチームで、学校に入学希望している医ケア児、普通の学校に特別支援学級を創設するケースなどについて保護者からお話しをいただくことがあった。そういったことについて、教育委員会からは何年前から希望を出さないといけない、学校側の準備があるなど、課題をクリアしないといけないといったことについて教えていただいた。そういったことをどうやって皆さんに伝えて良いのか、どういう手順で進めたら良いのかなど伺っている。

近藤氏) 花見川区の医ケアCOと動いたことで補足。基幹の立場としては親御さんの立場に寄り添う。避難計画についても、健康課や防災対策課が役所の所管部分でそれぞれ動いていると思うが、ご本人や保護者からすると、似たような声掛けが多く、混乱することもある。自分たちのことをよく知っている計画相談員に個別避難計画を作成してもらうのが良いとのことだった。基幹としては、福祉の立場、計画相談の後方支援も行っていることで、それぞれがやっていることの調和を取れないかと思っている。実際の避難路を一緒に回って探ったり、社協や民生委員さんに繋ぐなどしている。花見川区の事例では、本人が入院をしてケースの進捗がままならないこともあり、親御さんもどのように動けば良いか分からないなど、悩みながら日々を過ごされている中で、自分のことを長期で見ってくれる人があまりいなかったのでもうこうやって長期で一緒に考えてくれるのは有難いと感じてくれている人も居る。それぞれの立場でやれることや、自分たちのやってきたことを照らし合わせることで、理解を進められたことは一歩。計画を立てる中でどう現実的に進めるか。居場所と同時に電源をどう確保していくかも課題。そういったことを皆さんにも知っていただき、実際の避難をどのようにしていくかだと考えている。

近藤氏) 強度行動障害の方に対する支援について。まず、行動障害を知ろうというコンセプトから開始。拠点としても、支援困難な方が緊急に陥りやすいという視点で千葉市は緊急にならないために予防策も含めて、面的整備のネットワークを広げていき

ましようということコンセプトにしている。緊急時の検討も必要だが、受け入れ側の施設の実態がどうなのかも知る必要がある。市内入所施設の方々にお話しをいただいている。今後は、日中支援型を含めてGHの方々などにも状況を伝えていただくことで、ネットワークとして、障害がある方を支えることが出来るように模索していく。県の暮らしの場支援会議では、千葉市からあげたケースが悉く却下されていることもあり、実情の把握からスタート。市からも各区の行動障害のスコア分布を出していただいたりしている。

井出) 市内の入所施設や職員体制や、こういった支援をしているのかどういった受け入れ状況かなど伺うことが出来た。先ほど、知り合うことが出来た、ネットワークが出来たとおっしゃっていたが、その通りだなと思った。それが広がると千葉市の底上げになると思う。

仲村氏) 参加させていただいて、今まで各入所施設の状況が見えなかったのが、良い機会になった。ユニット、個室にした方が絶対に良いことは分かっているが、人やお金や場所がなく出来ていないところもある。無いなかでやっている状況や、出来る範囲でのやっていることなど、具体的な話しを研修会などで知ることが出来たら良いと感じた。

近藤氏) 入所施設は其中で完結してしまうことがある。アガペの里は、空きが出来たら発信をしてくれた。入所施設から発信をしてくれることがあまりなかったが、交流をすることで発信すべきと思ってくれたなら良かったと感じた。

藤尾氏) 強度行動障害については、中ポツ仲間のふる里学舎は、蔵波で点数高いケースを受けている。

藤尾氏) 就労部会準備会発足について(別紙あり)。就労部会については、自立支援協議会に必置することとして位置づけられているわけではない。本日配布資料の12スライド目の成果目標について。成果目標(案)に「就労定着率については、令和8年度の就労定着支援事業～」のところで、都道府県等が地域の就労支援のネットワークを強化し、雇用、福祉などの関係機関が連携した支援体制の構築を推進するため、協議会(就労支援部会)等を設けて取り組みを進めることを基本とする、ということが盛り込まれている。国としてもこういった部会を設けることが有効と考えている。これまで以上に福祉側で、就労をどうするのかという話しが出てきている。ダイバーシティ就労、ユニバーサル就労などウィングを広げている中で、基幹相談支援センターの伊藤さんの提案もあり準備会発足に至っている。

中ポツでは年6回 障害者就労に関するネットワーク会議を行っている。就労支援部会においては、より広く福祉や関係機関の方に参加いただき、公的な物になるよう進めていきたい。

参加いただいているのは、発達障害者支援センター 仲村氏、障害者を雇用し

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

ているスターティアウィル 飯田氏、千葉リハ 中島氏、親御さんの立場から育成会 島田氏、学校、ハローワーク千葉、ユニバーサル就労ネットワーク、サービス課 北田氏、基幹センターなど。皆さんそれぞれの立場から、どういう取り組みをしていくのか。

私からは、これから毎年雇用率が上がることについて。令和6年度は2.5%、令和7年は雇用率は上がらないが除外率が一律10ポイント下がる。最終的には令和8年7月には2.7%になる予定。障害者雇用では代行ビジネスが全国的に問題になっている。代行ビジネスの在り方が良いのか悪いのか。東京、埼玉、愛知、大阪などは行政とタイアップしているところもある。こういったことに対してどういったメッセージを伝えられるか、一般就労の課題。

参加してくださっている方の中には、移行支援事業所やその他立場の人も居る。福祉サービスの在り方、取り組みをもっとしっかり見ていく必要があると意見があった。昼食無料はどうか、クオカード進呈はありなのか。利用者がそれらで判断するのは良くないんじゃないか。企業の立場からは、福祉だけで就労についての意見交換をしてもしょうがない。企業も入れて取り組んでいただきたいという意見もあった。

令和5年度は何ができるか。今検討しているのは、就労系サービスの実態を知ろう。しっかり把握しよう、という方向。ハローワークと共同で、移行支援事業所の紹介マップを作成した。データが古くなってきたことや、コロナ禍でお互い顔の見える関係が希薄になってきているので、今一度、就労系の福祉サービスの実態調査をして、課題などを見つけていこうと考えている。その後、企業向けのアンケートも検討していく。重度障害者等の特別事業も取り組むことになっているので、就労部会で検討をしていく。これまでは雇用という狭い範囲で動いていたが、ウィングを広げていきたい。開催は、年6回(奇数月)を予定している。偶数月は、ネットワーク会議を行っている。場合によってはリンクしながら運用を行っていかれたらと思っている。

近藤氏) お互いを知ることにより質を高める場になると有意義だと思う。

藤尾氏) ネットワーク会議で、参加者にメリットがないといけないと思い求人情報を出していた。そのおかげで、学校や就労移行の参加率が比較的高かった。愛知県名古屋市は就労移行が90事業所程ある。その8~9割が参加している移行の会議がある。移行支援事業所がどうあるべきか考えたりしている。もう一つの会議は、どうやって人を集めるかどう運営していくかというもので、どんどん萎んでいった。こうあると良いよねとプラスの話しや、どうやって人を集めるのかなど、就労支援体制なども今後部会で話していかなければいけない。

近藤氏) うち是这样やっているなどを聞きながら、ブラッシュアップしていくことが良いかと思う。利用者が集まる理由を知る機会などになる。

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

仲村氏) 少し逸れてしまうが、聞いてみたいことがある。アルバイトが出来るケースで、アルバイトが出来ているから就労移行が使えないと言われてしまった。けど、アルバイトは出来るけど、正社員にはなれない方が多い。卒業後、フリーターの状態が続いている方が多いのだが、やっぱり使わせてはもらえないか。また、2年間使い切って就労したけど体調を崩して休んで、再度就職活動をしたい時に就労移行をもう一度使えないか。もう少し柔軟に使えないのか聞いてみたい。

窄口氏) 就労移行系サービスの所管が異なるため、お答えが出来ない。後で、返答をさせていただきます。

(後日、所管の施設支援班に確認した内容)

千葉市においては、非正規雇用も一般就労であると判断しているため、就労移行支援の支給決定対象者となりません。

ただし、就労移行支援を利用した後に非正規で雇用されたが、正規雇用を目指すために引き続き就労移行支援を利用したいとの意向がある場合等には、支給決定対象者となる場合があります。

奥澤氏) 1年間延長を諮問にかけるというケースはある。利用する事業所が異なり、作業内容も異なるとまた一から使えることはある。

仲村氏) ケースによって異なり、出来ないことがあった。

藤尾氏) 働いている方の福祉サービス利用については、令和6年の報酬改正に向けて、社会保障審議会で議論されている。ワーキングチームの中で話し合われていたのは、福祉の入口について。A型からいきなり就職ではなく、週1回会社に行く、それが出来たら増やしていくといったスライド方式。働いている中で不調になった時の福祉サービス利用の緩和。キャリアアップについては、働いているけどもっと良いところへ行きたい等の時に、福祉サービスを利用できるようにといった議論がされている。

井出) 移行はどうあるべきか、どういうことをしているのかお互いが知らない。利用する側も提供する側のためにも情報のまとめはやっていけるとよいと思う。

3. 児童系通所事業所HPについて

井出) チラシに記載のQRコードを読み込むと、ホームページに飛べる。千葉市に提出していただいている運営規定を基にホームページを作成。区毎に分かれており、主たる障害種別や送迎の有無などを記載。事業所の数が多く、基幹でも各事業所の詳細まで把握が出来ていなかった。しかし、年度の変り目は児童ケースの問い合わせが多い。このホームページを活用していただくと、ある程度の情報が載っている。チラシについては各区の高齢障害支援課の窓口に設置している。

奥澤氏) 昨日データが届いたので、来週から窓口に設置予定。反応を見ていきたい。

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

井出) 中央区基幹は新規で相談があった際に、すでにご案内をされているとのこと。

鳥海氏) 問い合わせ件数がとてもある。送迎の有無など大体聞かれるような必要な情報が知りえるものとなっている。親御さんが探したい時に活用できる。それ以上のことは問い合わせいただけたらと対応している。

近藤氏) 基本的に、児童の親御さんでこれを活用できるケースが前提。それでも分からなかったり、より必要な情報があった場合については基幹に問い合わせをいただく。導入部分のもの。段階の1～10全ての相談を受けていると捌ききれない、という前提もあることを理解していただきたい。

井出) その時々で情報の更新もあるため、どのように管理するか等今後話し合いが必要。

4. 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて

井出) 本日、四方田氏が体調不良から急遽欠席。精神保健福祉課 神崎氏が資料を作成してくださった。にも包括では、進め隊・広め隊・深め隊の活動をしている。詳細はお目通しください。

市民向けの普及啓発活動については、市民向け、若年層向けの普及活動を基幹で行っている。コロナの影響等で開催が出来なかった基幹については、次年度開催をしていくよう調整中。

医療機関からの退院時に福祉サービスの導入が必要なパターンについては、進め隊で資料を作成中。

近藤氏) 基幹で分担をし、にも包括進め隊に出席している。地域移行、退院について、基幹が動いてくれないと病院側のご意見があり、お互いの背景を深めて協議の場を設けてからは理解が進んでいる印象。基幹センターが関わる部分と計画相談員が関わる部分と、地域移行についてどの段階で関われるか、また、病院の見立てと福祉の見立てが一致していれば良いが異なることもある。進め隊の中では病院の中でインシアチブを握っている医師に地域移行の流れを理解していただくことを念頭に、図式にしたりして周知を考えている。福祉サイドにも有効なものでお互いすり合わせて齟齬が無いように進めようとしている。病院と福祉とで退院に向けた時間軸が異なることや当事者が GH に対して抱いているイメージなどの差異もあり、体験や知ってもらうプロセスも必要。

鈴木氏) 広め隊の美浜区研修会について、どこの会場で行ったのか。公民館、大学での普及活動については、公民館側、大学側どちらから繋がったのかお聞かせいただきたい。参加した方のご意見やご感想も寄せられていればあわせてお聞きしたい。

井出) 美浜区については、コミュニティセンターで民生委員向けに開催したと思われる。本日担当者が不在のため、詳細は後日にさせていただきます。

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

5. 令和5年度基幹ネットワーク会議事業計画

井出) 基幹にご相談をいただくケースでは対応に苦慮することがある。障害があるか分からないグレーゾーンのケースや障害が重くてなかなか支援が行き届かないケースの2パターンに分かれるかと思う。計画相談がついている場合は、基幹は後方支援に力を入れている。社会資源の開発も行っている。継続して、医ケア、拠点のコーディネーターの部会を継続して開催する。第5次千葉市障害者計画に則り、親亡き後を見据えた支援、発達障害者への支援、重度の障害がある方たちへの支援を行う。ネットワーク会議の位置づけについては概要図を参照。その他の集まりでは、拠点を考える研修や医療観察法の勉強会、児童系事業所意見交換会なども行う。

近藤氏) 県内基幹のネットワーク千葉県基幹相談支援センター連絡会が昨年出来た。中核と併設の基幹センターも多い。県内の約半分の市町村で基幹が出来た。県内をブロックに分け、千葉市6区で1ブロック。拠点や自立支援協議会などの形はあるが、実態が伴わない、アクションが起こしづらいという声が各地である。皆さんのお力添えいただいているおかげもあり、千葉市はこれからの計画を含めて現実化して形骸化しないようにしていることが評価されている。

6. 令和5年度千葉市6区合同研修会予定表

井出) 奇数月に関しては、6区合同の研修会を開催。9月については、相談支援従事者初任者研修で実地研修(インターバル研修)が必須となるため、合同研修に盛り込んで行うこととしている。

7. 緊急時の対応について

井出) 保護者死亡の50代ケース、入院したらGHから退去勧告されたケースなど、緊急時の対応について検討している。アセスメント及び見立てと対応のスキル、相談支援事業所へのフォロー可能な体制作り、行政との連携についての課題を検討することが必要。どの区でも緊急ケースが多くなっている。アセスメントの内容によっては繋ぎ先も異なる。他機関との連携も課題に挙げていく。今後基幹としては、緊急時のフローチャートを作成して、緊急の場合の動きの整理をしていけたらと考えている。

伊藤氏) 以前あった事例について。基幹相談そのものではないが、相談支援専門員等で生活保護のケースを担当している場合、同様の出来事が起きる可能性があるので報告させて頂く。生保の担当場合に起こるだろうことについて。生保のケースで入院中に亡くなられた。詳細は割愛するが、病院から早朝に亡くなったとの連絡が基幹に入った。ずっと病院に遺体を置いておけない。葬儀業者を依頼してほしいとのことだった。生保に連絡を入れる必要があったが、その日が土曜日でかつ4:30頃だった。病院から援護課に連絡してもらおうようにしたが、繋がらず再度基幹に連絡が入

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

った。基幹としても知っている業者があるわけでも、家族でもないのに、出来ないことがある。朝から昼過ぎまで、保健福祉センターに何度も連絡したが繋がらなかった。病院から紹介があった業者に繋いで何とかした。しかし、実際は家族がいたらしい。病院に行ったら「親の遺体がないじゃないか」となってしまった。土日明けてから、援護課に報告をしたが「援護課としては守衛が出ないから仕方がない」とのことだった。何人かに相談はさせていただいたが、その場の話で終わってしまった。運営事務局会議でも挙げて、保健福祉センターの所長会議に挙げていただけると有難い。

奥澤氏) 本来は、守衛に連絡していただくと、職にある人に連絡が入るはずではある。

近藤氏) 今の例は援護課のことだが、虐待に関しても、繋がらなかった時のことが心配。緊急事態用のフローチャートを作る予定だが、緊急の場合、行政も一緒に動く必要がある場合の不安を払拭していただけると有難い。

井出) 命に関わる場合もあるので、ご検討いただけると有難い。

8. 令和5年度運営事務局会議日程（次第記載の通り）

9. その他

窄口氏) 令和4年度の基幹の事業メインでのお話しであったが、児童系事業所の情報整理や、入所施設の意見交換など市内の既存の情報整理をしていただいて、有意義で素晴らしいと思っている。法改正も昨年あり、国の動きともリンクしている。国の方向性を見てから動くのではなく、すでに地域や現場で課題と感じていることを進めていただいているのは、大変有難いと感じている。

川口氏) 来年度も今年やっていたことの継続や新しいことなど、施策や実行に繋がるよう行政としても行えたらと思う。

奥澤氏) 昨年保健所において今年から地域に来ている。自立支援協議会が熱のある会議だと感じている。

鈴木氏) 1年間参加をさせていただいた。私自身の相談対応の経験として寄せられる中で障害の相談が少ない。この会議の内容が自分の経験にも繋がっている。私は地域福祉部門に属しているが、社協には様々な部門がある。今後はテーマに関わる部署に繋ぎ、繋ぐことで皆さま方との繋がりも結ばれるかと考えている。

仲村氏) 今年度から参加させていただいている。発達障害者のことは分かっているが、他分野のことは疎い部分がある。今年度参加させていただいて大変勉強になった。日々感じている、福祉制度の問題点など、外部からの声で変わっていくと良いと思う。

藤尾氏) 中ポツも地域を創る、耕すという役割があるが、基幹が千葉市に出来て、急激に進んだことがあると感じている。基幹でも困難ケースを受けていると思う。現在種まきの段階だが、地域の力が芽吹いて育っていく。もうひと踏ん張りなんだろうと思う。

日時：令和5年3月23日(木)14:00～16:15

場所：稲毛保健福祉センター2階会議室

それぞれの立場で、「これはうちがやるから大丈夫」と言える手が増えていくと、構造化した地域づくりになるかと思う。

丸氏) 3月末日で、市原市の生活介護の事業所へ異動になる。後任は、由良が担当になる。

由良氏) 日々、様々なケースを対応している。地域と福祉の貢献に努めたいと思います。よろしく申し上げます。

8ページにある千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム広め隊の詳細は、後日精神保健福祉課によってHP等で実績報告が公開される予定